# 第5節　常盤構内（山口大学工学部構内遺跡）の調査

## 1．工学部ガス管改修工事に伴う確認調査

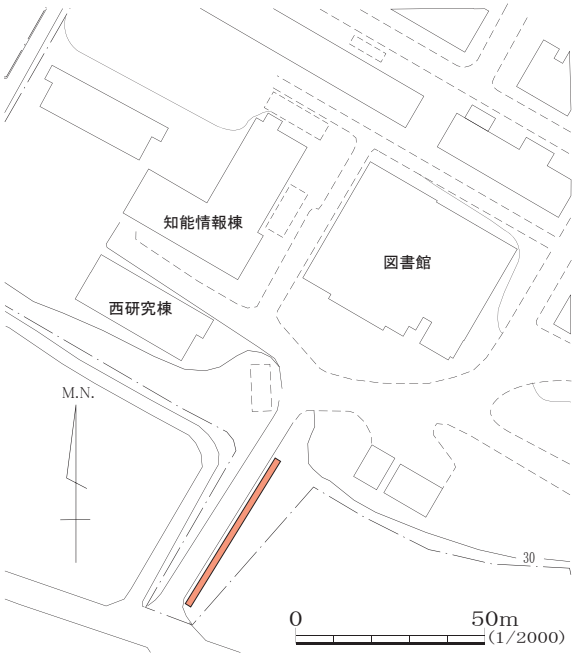


図 65　調査区位置図

写真 139　調査区全景（南西から）

写真 140　土層断面（北西から）

**調査地区**　常盤構内南西端部空閑地

**調査面積**　12.5㎡

**調査期間**　平成21年10月13日

**調査担当**　横山成己

**調査結果**　常盤構内南西部、工学部図書館南側の西門東部域において、ガス管改修工事にともなう地下の掘削工事が計画された（図65）。平成21年度時において、山口大学工学部校内遺跡は構内北東部のみが「周知の埋蔵文化財包蔵地」として範囲指定されていたが、工事計画地周辺での調査歴が存在しなかったため、埋蔵文化財の新規発見の可能性も生じたため、掘削時に確認立会調査を実施する運びとなった。調査は平成21年10月13日の1日限りで実施した。

掘削工事は幅約1m、全長45mの規模で北東－南西方向に行われた。掘削深度は北東端部で0.95m、南西端部で0.9mを測ったが、全域造成土内に止まっており、自然堆積層および地山の確認には至らなかった（写真139・140）。

常盤構内は、大学造成時に大規模に削平を受けていることが既往の調査により判明しており、明確な埋蔵文化財は構内北西部以外に遺存していない状況が想像される。ただし、旧地形を考えると構内南－西縁辺部においては埋蔵文化財が遺存する可能性を完全否定することはできない。

今後とも、掘削深度の深い工事計画が持ち上がった場合には、時間が許す限りで確認調査を実施する所存である。